日本水環境学会第 5 回東北支部研究発表会報告

第 10 回 廃棄物資源循環学会東北支部合同企画

主　催　東北支部　第 5 回研究発表会実行委員会および廃棄物資源循環学会東北支部
日　時　2017 年 1 月 27 日（土）
場　所　東北大学青葉山キャンパス総合研究棟 1F
　　仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-05
参加人数　101 人（水環境学会での受付登録 69 人）

報告概要

2018 年 1 月 27 日（土）に東北大学工学部・総合研究棟 1F において、第 5 回日本水環境学会東北支部研究発表会が開催された。昨年に引き続き、廃棄物資源循環学会東北支部との合同研究発表会としての開催であり、正式名称「第 10 回廃棄物資源循環学会東北支部・第 5 回日本水環境学会東北支部合同研究発表会」である。参加者数は計 101 名（学生 53 名、一般 48 名）であり、昨年（計 85 名）と比べて大幅に増加した。今年度は開催案内の周知を早めたことで支部研究発表会への関心が高まり、参加者の増加に繋がったと考えられる。

本合同研究発表会には口頭発表セッションとポスター発表セッションがあり、いずれの形態で発表する場合でも、2017 年 12 月 15 日までに発表申し込みを行い、2018 年 1 月 10 日までに発表要旨（口頭発表は A4 版 2 ページ、ポスター発表は 300 字以内）を実行委員会宛に提出することが求められた。発表形式は、発表者数を勘案し、口頭発表が発表 10 分、質疑応答が 3 分、ポスター発表は 50 分間とした。口頭発表は 1 会場で行い、5 つのセッションで計 27 件の発表があった。ポスター発表は口頭発表会場に隣接した 1 会場で行い、計 24 件の発表があった。特筆すべきは、口頭発表に 2 件、ポスター発表に 14 件の高校生による発表があった点である。宮城県仙台二華高等学校で行われている東南アジアにおけるサニテーション設備整備に向けたプロジェクトにおいて、東北支部幹事が指導をしている関係から、今回の東北支部研究発表会で学生による成果発表を行った次第である。この試みはここ数年継続して行われており、高校生の環境問題への意識を育む貴重な機会となっている。昨年度に比べ社会人による発表および在仙以外の大学・高専からの発表が 5 件増加し、早めの開催案内周知の重要性を認識した。

口頭発表終了後、優秀発表者を選定するために参加者（一般）に配布していた投票用紙を回収し、廃棄物資源循環学会と合同で最優秀発表賞と優秀発表賞を決定した。下記のとおり、社会人・大学院生の部から最優秀発表賞 1 件、優秀発表賞 2 件、学部・高校生の部からそれぞれ 1 件、2 件、の合計 6 件が選ばれた。昨年と同様、ポスターセッションからの表彰はしなかった。

ポスターセッション後に同一会場で開催された交流会には約 60 人が参加した。実行委員長から審査結果が公表され、中山日本水環境学会東北支部支部長から講評をいただいた。

【一般・院生部門】
　＊印は廃棄物学会所属、〇印は非学会員

最優秀発表賞
・劉暁玥＊　東北大学大学院国際文化研究科
　「日本における小型家電リサイクル政策の妥当性分析−携帯電話を中心に−」

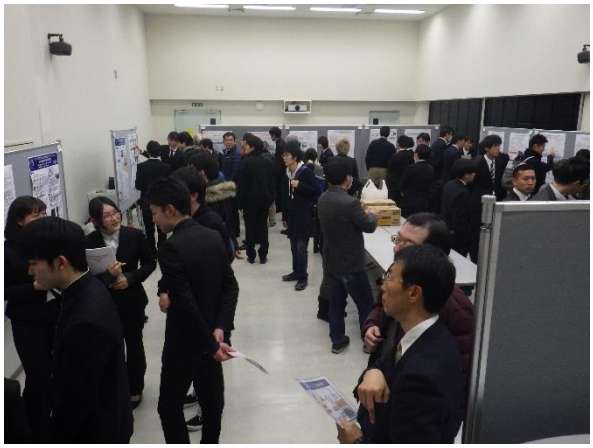
優秀発表賞
・池田聡＊　東北大学大学院工学研究科
　「発電排熱による前処理を導入した下水汚泥嫌気性消化システムのエネルギー利用の効率化」
・白砂智将　東北大学大学院工学研究科
　「一槽式 Anammox プロセスを用いた生ゴミメタン発酵消化液の窒素除去」

【学部生・高校生部門】

最優秀発表賞
・田村尚己○　宮城県仙台二華高等学校
　「竹パウダーをおがくずの代用品としてバイオトイレの担体に利用した場合、消臭効果は期待できるか」

優秀発表賞
・菅野夏葉○　宮城県仙台二華高等学校
　「カンボジアにも日本と同様に災害地名はあるのか」
・浅見雄紀　日本大学工学部
　「堆積物燃料電池が下水汚泥からのチョウバエの発生に及ぼす影響」

発表会場の様子



ポスターセッション会場の様子

表彰者との記念撮影

意見交流会の様子

（文責）
実行委員長/東北大学　佐野大輔